広報

常陸大宮

2026
11
No.266





［特集］

これからを見据えて、今、学校で育まれる力





【表紙】
市内小中学校では、地域や人とのつながりを生かし、学力はもちろん、心の豊かさや社会性を育む個性豊かな授業が行われています。今月号では、市内小中学校に通う児童・生徒のために、各学校や教育委員会が行っている取り組みや、未来の子どもたちのことを考えた小中学校の適正配置のための取り組みを紹介します。

［特集］

これからを見据えて、今、学校で育まれる力

市では、地域の特色を生かしながら、児童・生徒の学びと成長を支えています。一方、少子化が進む中、未来の子どもたちに必要な教育環境をどのように確保していくかが課題となっています。市教育委員会や各学校で行っている今の児童・生徒のための取り組みと、未来の子どもたちのために行っている取り組みを紹介します。

常陸大宮市で「今」学ぶということ

常陸大宮市で子どもたちが過ごすメリット、それは、豊かな自然や地域の文化、人々との関わりを通じて多様な経験ができることにあります。市の教育委員会や小中学校では、それぞれの特色を生かし、知識や学力だけでなく、豊かな心や社会性を育めるよう、様々な教育活動に取り組んでいます。

数字から見る、学校を取り巻く変化

一方で、人口減少や少子化が進んでいることも事実です。そのため、市教育委員会は令和７年12月に常陸大宮市義務教育施設適正配置審議会に対し、今後の適正配置に関する基本計画の策定などについて諮問しました。審議会の調査では、市内の小中学校の児童生徒数が、令和８年度の2,118人から、令和13年度には1,616人になると推計されました（図１）。５年間で約500人、現在の約４分の１が減少する見込みです。小規模な学校には、一人ひとりに目が届きやすいことや、学年を超えた交流が生まれやすいことなどの良さがあります。一方、集団活動の幅や、多様な考え方に触れる機会が限られるといった課題もあります。

アンケートでわかった保護者や地域の声

令和８年４月から６月にかけて、小中学生・未就学児の保護者、区長、教育関係者などを対象に、アンケート調査を実施しました。結果として、回答者の８割以上が一定以上の学級数を確保するための学校配置の見直しを「必要」「どちらかといえば必要」と答えました（図２）。

子どもたちを第一に、これからの学びを考える

こうした現状やアンケート結果などを踏まえ、令和8年10月、審議会は、教育委員会に小中学校の適正配置について答申しました。答申書では、「学級数」「児童生徒数」「通学時間・通学方法」の指針を踏まえて適正配置を進めること、市教育委員会が舵取り役となり、段階的な再編や考え方を整理した短期・中期・長期でのロードマップを策定することなどが提言されています。

また、小中学校は地域コミュニティを支える大切な拠点でもあります。統廃合により閉校が想定される場合は、地域の声などを丁寧に聞き、コミュニティ拠点への転換や新たな教育施設としての有効利用等の検討も必要であるとの内容も含まれています。

今後、この答申をもとに、子どもたちの学びを第一に考え、教育委員会で具体的な実施計画を策定していきます。そして、保護者や地域の皆さんに丁寧に説明しながら、適正配置を進めていきます。

▲適正配置答申の詳細など

図１　小中学校児童生徒数の将来推計

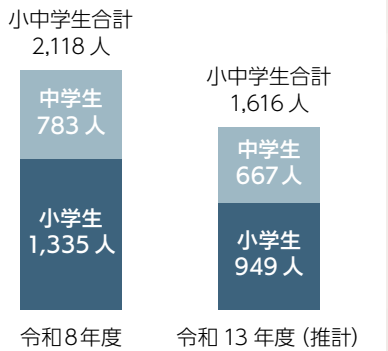
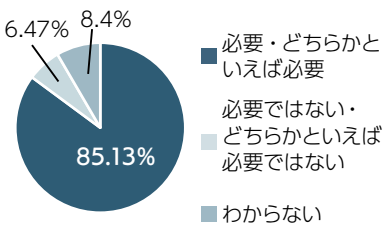


図２
問　一定以上の学級数を確保するために小中学校の配置を見直すことについて、あなたはどのように考えますか



（出典：小中学校のあり方を考えるアンケート）

今、市内小中学校に通う子どもたちのための市の取り組み

市教育委員会として行っている、今小中学校に通う子どもたちが、知識や学力はもちろん、豊かな心や社会性を育めるような様々な取り組みを紹介します。

人数を問わない 一人ひとりに寄り添う学び

複式学級が導入されている５つの小学校に、市が独自に先生を増やして配置しています。複式学級であっても、各学年の授業が行えるよう配慮しています。

また、「確かな学力」の育成の基盤となる親和的な学級づくりのために、「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート（hyper-QU）」を行っています。アンケートによって、学級全体の傾向がわかり、個に応じた支援ができるようになります。学校生活に満足する本市の子どもたちの割合は、全国平均（約42％）に比べ高くなっています。

令和４年度後期	64.4%
令和５年度後期	66.8%
令和６年度後期	65.9%
令和７年度後期	70.0%

表　「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート（hyper-QU）」で「学級生活満足群」と判定された常陸大宮市内の児童・生徒の割合

授業でも家庭学習でも デジタル活用



授業では、動画や図形などを動かせる3D画像、即時に書き込みが共有されるホワイトボードアプリなどを使い、内容の理解を深める活用がされています。また、児童・生徒がオンラインデザインツールで、学校行事のチラシを作るなど、自由な発想を表現する道具としても使われています。

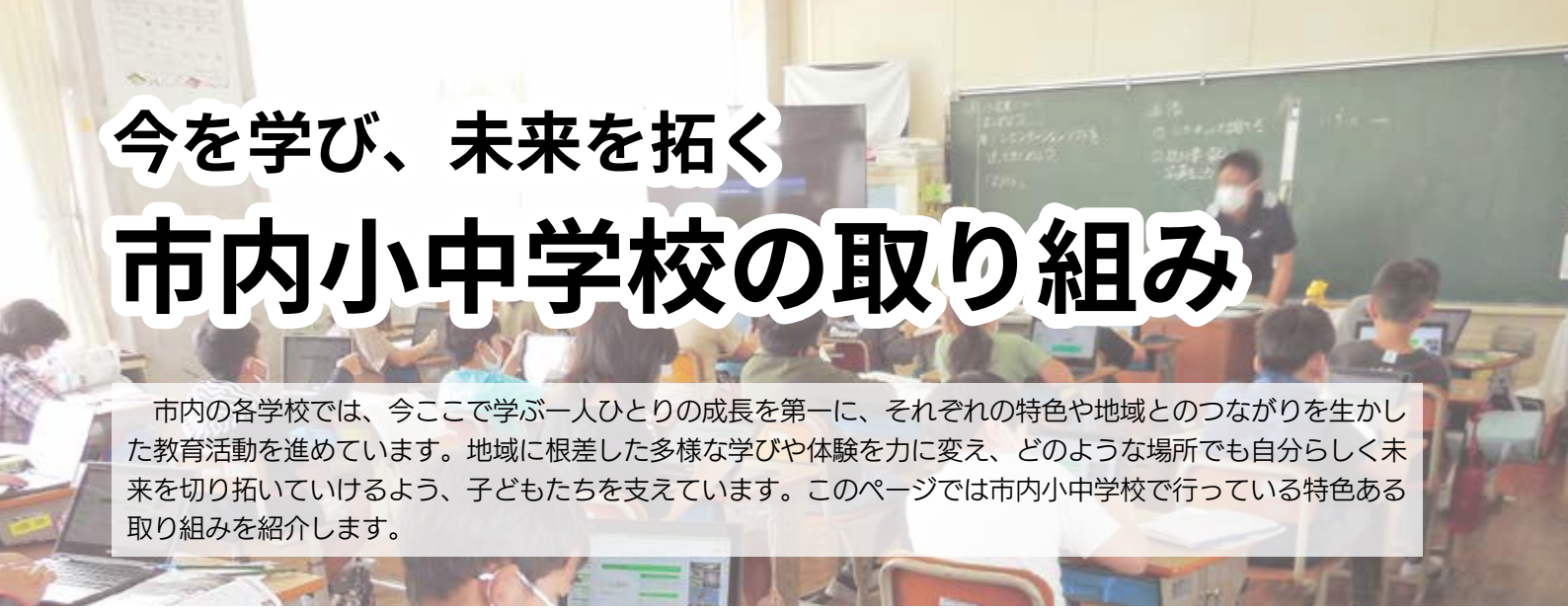
さらに、「スタディサプリ」（株式会社リクルート）の講義動画・WEBドリル、「eライブラリアドバンス」（ラインズ株式会社）のAIドリル機能などのオンライン学習サービスを、市内の全小中学校の児童生徒が無料で利用できます。

多様な経験で将来の可能性を広げ、心の成長を促す

市内中学３年生を対象に、オーストラリアの文化や自然に触れホームステイを通して、語学力向上と国際理解を深める中学生海外研修を実施しています。

また、今年度から中学１年生を対象に「芸術ふれあい体験事業」を授業中に実施しています。市内在住の著名な芸術家が講師を務め、直接芸術を学ぶことで、芸術への関心を深め、想像力や個性を養うことを目的としています。





今を学び、未来を拓く
市内小中学校の取り組み

市内の各学校では、今ここで学ぶ一人ひとりの成長を第一に、それぞれの特色や地域とのつながりを生かした教育活動を進めています。地域に根差した多様な学びや体験を力に変え、どのような場所でも自分らしく未来を切り拓いていけるよう、子どもたちを支えています。このページでは市内小中学校で行っている特色ある取り組みを紹介します。

村田小学校



地域での豊かな経験を力に 児童が伸び伸び活躍する学校

本校は、「知･徳･体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成」を目指し、今年度は、『みんなで　かがやく　村田小』をテーマに教育活動をしています。

本校の児童は、地域の人々に支えられています。地域の偉人「雪村」に関する学習、キウイ狩りや農家見学、そして全校で行うサツマイモの栽培や稲作活動など、豊かな経験とともに健やかに成長しています。これらの経験は、児童の自己実現の土台となっています。親子活動や児童会活動、各学級での係活動など、多様な場で児童は伸び伸びと活躍しています。

村田小は、16年前の小場小との統合を経て、創立124年を迎えました。今後も保護者の皆さんや地域の人々への感謝の思いとともに、「みんなで　かがやく」ため、力を尽くしてまいります。

上野小学校



伝え合い、地域に学び、 学年を超えて力を合わせる

本校は、開校152年目を迎える歴史ある伝統校です。今年度は学級数８学級、児童数163人でスタートしました。学校の教育目標「よく学び　げんきで　なかよく」のもと、教育活動を推進しています。

授業では、自分の考えを相手に伝え、相手の意見を受けとめることで、表現力を高める教育に取り組んでいます。さらに地域の人材資源を活用し、泉坂下遺跡や雪村などについても学び、郷土を愛する児童を育成しています。

特色ある学校行事では「全校歩く会」を10月下旬に実施しました。１～６年生の縦割りによるグループで地域を歩き、ゴールを目指しながら、異年齢で協力する大切さを学びます。

今後も学校、保護者、地域が一体となって教育に取り組んでいきます。

大宮小学校



健やかな心と体を育み、 主体的に学ぶ学校づくり

本校は、「児童が主体的に学び、笑顔あふれる活力ある学校」を目指し、学力向上と健康体力の増進を大切にした教育活動を推進しています。

健康面では、むし歯のない児童が多く、健康な生活習慣が育っています。また、体力向上の取り組みが評価され、昨年には県教育委員会から「体力つくり奨励賞」を受賞しました。

学習面では、ICT機器を効果的に活用しています。全国学力･学習状況調査では「ICT機器を使ってプレゼン資料を作成できる」と答えた児童は９割を超え、全国平均を大きく上回りました。

今年度は学びのイノベーション推進事業を通して、主体的に学ぶ力の育成を図っています。また、平成13年から秋田県大館市との交流も続いており、地域を越えた学びも大切にしています。

大賀小学校



小規模校のよさを生かした大賀小だからこそできる教育

本校は、創立140年を迎え、地域の信頼に支えられ、「児童一人一人が輝く学校づくり」に取り組んでいます。

地域の人的・物的教育資源を積極的に活用した体験的な活動と、児童の主体的・協働的な学びを推進し、自己肯定感を高めるとともに、多様な体験を通して、表現力や課題解決力、地元に対する愛郷心を育んでいます。

これまで、鮎の放流やサツマイモ栽培、真竹収穫、道の駅での物販体験、収益を活用した社会活動、地域住民と合同の運動会や防災体験などを行いました。また、パラオ共和国との交流など、外国語活動にも力を入れています。

さらに、異学年交流や善行賞の授与などで、児童一人ひとりの活躍の場を広げ、互いのよさを認め合い、ともに成長する児童の育成に努めています。

大宮北小学校



一人ひとりの「なぜ」に寄り添い、自信を育む

教育目標の「好きを育み、得意を伸ばす、笑顔あふれる学校【わくわく　にこにこ　きらきら】」の達成のため、全教職員で教育活動に取り組んでいます。

児童が主役の「『させる』から『支える』授業づくり」への転換を図り、「なぜ」「もっと知りたい」を引き出す教育に力を入れています。少人数指導ならではの丁寧な関わりと、失敗から試行錯誤し学びを深める授業で、児童の自己肯定感と自己有用感を育んでいます。

さらに、地域の支援のもとで様々な体験活動を行い、多様な人材と関わりながら、「こども歌舞伎」などの地域の伝統文化を継承し、地域を担う子どもたちの育成に取り組んでいます。

今後も、「わくわく　にこにこ　きらきら」な児童の姿を実現する活力ある学校づくりを進めていきます。

大宮西小学校



学年を超えて力を合わせ、仲間とともに育つ

本校は「仲間とともに育つ学校づくり」をテーマに教育を行っています。

毎年10月に行われる運動会でも、児童は、学年を超えて、仲間と力を合わせて競技や表現活動に精一杯取り組みます。応援合戦や係の役割を通して全校を引っ張るのは、本校のリーダーである高学年児童です。

そんな高学年児童がひときわ輝く姿を見せるのが、オープニングを飾るフラッグパフォーマンスです。５・６年生全員が、大きな旗や布を巧みに操り、音楽に合わせて次々と隊形を変える姿は下級生の憧れです。息の合った演技を見せるために、５・６年生はプライドをもって、真剣に練習を積み重ねます。10月24日に行った運動会でも、高学年児童は見事な演技を披露し、会場からの大きな拍手に包まれました。

山方小学校



「スマイルタイム」で育む、認め合い支え合う心

校歌「スマイル」にちなみ、児童と一緒に笑顔あふれる活動を考え、実践しています。月１回の「スマイルタイム」では、異学年交流を通して、思いやりの心や主体性、協働する力を育んでいます。地域の協力のもと、多様な体験活動を行っています。縦割り班で計画･運営することで、高学年はリーダーシップを、低学年は上級生を手本に学ぶ姿勢を育み、互いに認め、支え合う関係づくりにつなげています。

また、清掃活動にも意欲的に取り組んでいます。異学年で協力しながら、隅々まで丁寧に清掃することで、働くことの大切さや責任感、公共の場を大切にする心を育んでいます。

今後も、児童が主体的に活動し、互いのよさを認め合える学校づくりを推進してまいります。

山方南小学校



自ら考え発信する力を育て、地域での体験から学ぶ

本校の教育目標は「自ら学び 心豊かで たくましい児童の育成」です。今年度は、「ウェルビーイングな学校」実現に向け、様々な取り組みを行っています。これまでには、児童が自分の考えをもち発信するための「書く力、アウトプットをする力」の育成、時間割の工夫･改善、近隣保育園･小中学校との連携の強化を図ってきました。

また、地域の人々とのふれあいや体験活動も盛んです。初夏にはじゃがいも掘りやホタル観察会、秋には山方南ふれあいの集いや野上太鼓保存会の和太鼓体験、冬には校内持久走の応援など、多くの人々の協力のもと、児童は学んでいます。今後も常陸大宮市の掲げる「郷育」を大切にし、全児童が笑顔と思いやりあふれ、生き生きと活動する楽しい学校を目指します。

美和小学校



「学びたい」を引き出し、多様な体験で生きる力を育む

「自ら学び　心豊かで　たくましく生きる児童の育成」を教育目標に掲げ、児童一人ひとりの可能性を大切にしながら、地域や保護者と連携し、誰もが輝く学校づくりに取り組んでいます。

児童の「学びたい・やってみたい・考えたい」という意欲を引き出し、すべての児童が安心して参加し、達成感を味わえる授業を実践しています。また、午前中5時間授業を導入し、午後に補充学習「美杉タイム」を設定することで、個に応じたきめ細かな支援を行い、確かな学力の定着を図っています。

さらに、全学年によるビオラの栽培・販売をはじめ、1・2年生の野菜づくり、5・6年生の田植え・稲刈りや手箒づくりなど、豊かな体験活動を通して工夫する力ややり抜く力を育み、将来のキャリア形成へとつなげています。

緒川小学校



地域の行事や名人と関わり、ふるさとへの誇りを育む

本校は「地域とともにある学校」を目指し、「みんなでよくなる」を合言葉に、地域に支えられながら、児童の成長を育んでいます。

今年度は、本学区（あこし）の伝統ある立野神社の祇園祭に子供神輿やオカリナ演奏で参加しました。暑さや安全対策、運営面での調整など、多くの課題を経て、児童は、教職員や保護者、地域の人々が見守る中、地域の一員として貴重な経験をすることができました。

また、総合的な学習の時間には、シイタケやサツマイモの栽培、枝物、芝桜、和菓子など、緒川地域の名人から学び、本物に触れる豊かな体験を通して、地域への理解を深めています。

今後も「郷育立市」の理念のもと、ふるさとのよさを実感し、地域に誇りをもつ児童を育んでいきます。

御前山小学校



豊かな自然を体験し、地域とともに歩む学校

本校は、平成21年に伊勢畑小･長倉小･野口小の３校が統合して誕生した比較的新しい学校です。今年度は全校児童79人の小規模校ですが、地域の豊かな自然を生かした魅力ある教育活動に取り組んでいます。

春の田植えやビオトープ探検、夏のカヌー体験、秋の稲刈り、芋掘り、ごぜんやままつりなど、学校運営協議会を中心に、地域の人々が児童のために多彩な体験活動を温かく支えてくださっています。

今後は「地域に支えられる学校」から「地域とともに歩む学校」へと歩みを進め、「学校が地域のためにできること」へと視点を広げてまいります。学校が地域の課題解決の一助となれるよう、共に取り組んでいきます。

大宮中学校



伝統を受け継ぎ、夢や希望へ挑むやりがいのある学校

昭和22年の開校以来、大場中・世喜中・第一中との統合を経ながら、地域と共に歩んできた歴史と伝統を誇る学校です。昭和27年に制定された校訓「自主・責任・協同・健康・勤労」を伝統の柱とし、地域に根ざした郷育を長年にわたり推進しています。

学校教育目標には、「夢や希望の実現のために意欲的に努力する生徒の育成」を掲げ、生徒会や学校行事など生徒が主体的に活動し、さらにICTを活用しながら学力向上に向けた授業改善にも取り組んでいます。

生徒・教職員・保護者・地域が一体となり、「安心・安全な学校として、みんなが楽しむ大宮中学校」を目指し、日々の授業や学校行事を通して、自ら考え行動する力を育て、未来へと力強く羽ばたく生徒を育んでいます。

第二中学校



「チーム二中」で支える、一人ひとりの学びと未来

本校は、「一人一人が輝くことを大切にし、自ら学ぶ生徒の育成」を目指して教育活動に取り組んでいます。

その土台となるのが「二中学びプロジェクト」です。「分かる授業を目指した二中授業スタイル」、「学級や一人ひとりの特性・分析結果に応じた指導と支援」、「生徒会活動の活性化」などを柱に、様々な角度から生徒の成長を支えています。

また、市内事業所などでの職場体験学習、プロ野球選手や笛師など各分野で活躍する人々の講演会、卒業生から話を聴く会など、社会的自立に向けた力と自らの可能性を広げる力を育てるキャリア教育にも力を入れています。

これからも、保護者・地域とともに「チーム二中」として、生徒一人ひとりのよりよい成長を全力で支えていきます。

山方中学校



「みそあじさ」で自律を育み、互いに認め合い、挑戦する

「自らに誇りをもち、進んで行動できる生徒の育成」を教育目標に掲げ、生徒一人ひとりの可能性を伸ばす教育を推進しています。

生徒の知的好奇心や意欲を引き出す授業づくりと、互いの個性を尊重し認め合う集団づくりを進めています。また、社会に出ても通用する規範意識を身につける合い言葉として「みそあじさ（身なりを整える·掃除に誠実·進んであいさつ·時間を大切に·最後まで聴く）」を日々の行動指針として実践し、豊かな人間性を育んでいます。

さらに、生徒たちが失敗を恐れず挑戦できる場を積極的に創出し、家庭や地域と連携して、生徒の成長を支えています。郷土への愛着と誇りを胸に、将来、地元に貢献できる人材の育成を目指した学校作りに取り組んでいます。

明峰中学校



中高一貫の学びで、地域と歩み、夢の実現を支える

本校の学校教育目標は、「ふるさとを誇りとし　人間性豊かで　たくましい生徒の育成」です。全職員で、生徒一人ひとりと向き合いながら落ち着いた日々を過ごしています。また、本年度の重点として、「自ら考え行動できる生徒の育成」とし、自律と対話を軸に、教育活動を進めています。

小瀬高等学校とは、連携型中高一貫校として、「福祉体験」や「ふれあいキャンパス」といった行事などで交流を深めています。中高生が共に活動しながら、「地域の中で歩み、地域に貢献できる生徒」の育成をめざします。

今後も「チーム明峰」として、家庭·地域との連携を深め、生徒が夢を実現する一歩を踏み出せる教育活動を多く取り入れ、自ら考えて行動できるよう支援していきます。

MITO HOLLYHOCK × 常陸大宮市

J1リーグ所属の水戸ホーリーホックのホームタウンとして、今シーズンもクラブと連携して行った市内での選手サイン会や、公式戦でのブース出展などの様子をレポートします！

10.8

常陸大宮市 PR 大使
渡邉選手 市長訪問＆サイン会



2026/27シーズンで常陸大宮市PR大使を務める渡邉新太選手が市長表敬訪問とサイン会を行いました。サポートメンバーとしてブラジル出身のウーゴ選手も参加したサイン会＆トークショーには、400人を超える人々が会場に集いました。トークショーでは、練習後に一緒にジョギングしながらコミュニケーションをしているという話題から、渡邉選手のさりげない気遣いをウーゴ選手が紹介するなど、終始笑顔があふれる時間となりました。







10.31

常陸大宮市の日
vs サンフレッチェ広島戦

水戸信用金庫スタジアムでの公式戦で、同日出展の高萩市とJ1の試合を盛り上げてきました！



(c)MITO HOLLYHOCK



▲前座試合として、市内のサッカー少年団「大宮 SSS」と「小瀬 JSC」の合同チームが、J1 のピッチで高萩市のチームと対戦しました。




(c)MITO HOLLYHOCK

▲常陸大宮市ブースでは、来場者参加型イベントとして、市産有機米が当たる「お米量りチャレンジ」を開催しました。

▶ひたまる、ホーリーくん、はぎまろのキャラクター軍団がブースに出現！


(c)MITO HOLLYHOCK


(c)MITO HOLLYHOCK

◀試合前には萩本副市長とひたまるがピッチサイドであいさつを行いました。

10/5 市内在住・石川実さん
ブラジリアン柔術の世界大会で優勝

市内在住の石川実さんが、寝技を中心とした格闘技「ブラジリアン柔術」の世界大会「SJJIF World Jiu-Jitsu Championship2026」で優勝し、市長に報告に訪れました。

昨年６月、足のけがの治療のために訪れた整骨院で勧められ、柔術を始めたという石川さん。自宅に練習場を作り、毎日練習に励んでいるといいます。石川さんは優勝時を振り返り、「次の青帯に昇格するために優勝できてよかった」と話しました。



▲（右）石川実さん

10/5 市に長年貢献の医療機関・医療従事者に
消防長から感謝状を贈呈

長年、地域医療に貢献してきた常陸大宮済生会病院、市内でのドクターカー運行に尽力してきた井上貴昭医師、小田有哉医師など医師３人、看護師４人に、消防長から感謝状を贈りました。

常陸大宮市のドクターカーは平成30年に試行運行を始め、令和２年から本格運行しています。試行運行開始から９年間、今回の表彰者をはじめとする医療従事者の尽力により、救急現場で多くの傷病者を救ってきました。



▲（左から）井上貴昭医師、常陸大宮済生会病院 小島正幸院長、小田有哉医師

10/10 オカリナの音色が響き渡る
宗次郎森の音楽会 in 常陸大宮

緒川地域センター文化ホールで、オカリナ演奏の第一人者であり、常陸大宮大使の宗次郎さんのコンサート「2026秋 宗次郎森の音楽会in常陸大宮」を開催しました。

毎年、春と秋に開催しており、今回も埼玉県や栃木県など、県外からも多くのファンが来場しました。会場全体が宗次郎さんの美しいオカリナの音色に包まれ、心癒される時間となりました。



▲コンサートでは、宗次郎さんのオリジナル曲 10 曲が披露されました。

10/10 ~11 秋田県大館市で舟納豆を PR
「きりたんぽまつり」に出店

常陸大宮市と友好都市である秋田県大館市で行われた「第54回本場大館きりたんぽまつり」で、本市のPRを行いました。イベントには２日間で７万人以上が来場しました。

ブースでは、株式会社舟納豆の協力のもと、看板商品である「舟納豆」のほか、「ちびまるなっとう」「納豆あげ餅」などを販売し、閉会の１時間半前には商品が完売するほど大盛況となりました。



▲購入者からは、「舟納豆を楽しみに来ました」「常陸大宮市に行ってみたいです」といった声が聞かれました。

10/15 花いけバトル強豪校の小瀬高校で 枝物農家のもとで特別授業

小瀬高等学校の１年生が、市内の枝物農家で収穫や花いけを体験する特別授業が行われました。同校は花いけバトル茨城大会で５年連続優勝し、全国大会にも出場している強豪校です。

授業では、枝物を生産している畑の見学や、手作業で枝を整える体験を行いました。実際の枝物の畑を見た生徒たちは「実物は想像より大きくて驚いた」「実際に植えられている状態を初めて見た」などと話していました。



▲枝物を商品として整える作業を通して、枝物には表と裏があることなど、生産者ならではの知識を教わりました。

10/18 ごみのないまちづくりへ 市内一斉クリーン作戦

ごみのないきれいなまちづくりを目的に、市内一斉クリーン作戦を行いました。

市民約8,200人が参加し、道路に落ちている空き缶やペットボトル、紙くずなど、合計約2.6tにもなるごみを回収・処分することができました。クリーン作戦を通して、参加者一体となって、市内の環境美化に取り組んだ一日となりました。

引き続き、きれいなまちを維持するため、ご協力をお願いします。



▲上檜沢地区でのごみ拾いの様子

10/19 長年職務に精励した監査委員に 監査功労者表彰を伝達

市の代表監査委員を務める飛田啓一さんが、全国都市監査委員会から令和８年度の監査功労者として表彰され、市長から表彰状の伝達を行いました。この表彰は、長年にわたり職務に精励した監査委員に贈られるものです。

飛田さんは、平成30年８月から現在まで監査委員を務められ、公正で効率的な市財政の運営指導を通して、市政の発展に貢献されています。



▲（右）飛田啓一さん

志村大宮病院 呼吸器外来 広告
対象疾患 ○長引く咳 ○気管支喘息 ○COPD（慢性閉塞性肺疾患）
○誤嚥性肺炎 ○肺がん検診精密検査
○肺悪性腫瘍（肺がん化学療法実施）○肺ドック
外来日 9:00～12:30

月	火	水	木	金	土
○	○	○	○	○	ー

相談窓口 TEL0295-53-9910（ご予約も可能です）
TEL0295-53-1111 https://www.hakujinkai.com

広報紙・ひたまるアプリ 掲載広告募集中!

【広報紙（広報常陸大宮・お知らせ版）】
半枠（45mm×85mm）、全枠（45mm×175mm）
【ひたまるアプリ】
スマートフォン通知、アプリ内に１週間記事掲載
詳しくは企画政策課（☎52-1111 内線311）までお問い合わせください。

10/24 世代を超えてスポーツの秋を楽しむ スポーツフェスティバル

市スポーツ協会が主催する、老若男女が楽しめるスポーツイベント「HITACHIOMIYA スポーツフェスティバル2026」が開催されました。

会場では、各競技の市内連盟加入者などから教わりながら、野球のバッティング、サッカーのドリブルからのシュートなどにチャレンジする「スポーツ体験会」、ラグビーボールのような特殊なボールを使うニュースポーツ「ヘルスバレーボール」の大会などが行われ、参加者はスポーツの秋を満喫しました。



▲バスケットボールの体験では、30秒以内にゴールを決めるチャレンジを行いました。

10/31 棟上げ後の日本の伝統行事 子育て世帯向け住宅で上棟式を開催

中富町に建設中の子育て世帯向け住宅で、住宅施工業者による上棟式（餅まき）が開催されました。子育て世帯向け住宅整備事業は、令和５年度から市の重点政策として取り組んでいます。今年は新たに８棟が完成する予定です。

鈴木市長は「１期の住宅は、受託者に良い家を造っていただいた。住む人々は家を大切に扱ってくれていてありがたい。今回の住宅２期目の上棟も無事に迎えられ、嬉しく思っている」とあいさつしました。



▲会場にはおよそ400人が訪れ、棟上げ後の日本の伝統行事である上棟式（餅まき）を通じて、地域へのあいさつを行いました。

11/1 秋めく「関東の嵐山」をランナーが巡る 御前山トレイルラン大会

関東の嵐山とも呼ばれる御前山地域の山道や川沿いを走る「御前山トレイルラン大会」が開催され、300人を超えるランナーが参加しました。このイベントは「御前山」がまたがる常陸大宮市と城里町が連携して行っています。

大会では、初心者向けのコース約６km、上級者向けのコース約28kmにわたり、トレイルランならではの自然がそのまま残る山中を駆け巡りました。



▲今年９月にリニューアルしたばかりの道の駅かつらからスタートし、ランナーは秋の御前山を走り抜けました。

常陸大宮市の情報がいつでもどこでもすぐにわかる！
ひたまるアプリ
市最新情報をスマホに通知
ごみ収集日のプッシュ通知
防災・災害関連情報
二次元コードを読み取っていますぐダウンロード！
App Store
Google Play

2つの牛石（うしいし）

何げなく通る道ばたに、ひっそりと立つ古びた石の道標や石仏、石塔があります。

見慣れた風景の一部として普段は気にも留めず、見過ごすことの多いその石たちですが、道標は方向や行き先を示し、石仏や石塔は祈りの場であるとともに、道を行く人を見守る存在でもありました。そして、その土地に生きた人びとの祈りや信仰、そして伝説や伝承とともに暮らしの記憶などが刻まれています。

そういった石たちの中から、今回、「牛」にまつわる2つの石、「牛石」を紹介します。

一つは、三美（みよし）の県道脇にある「牛石（供養塔）」です。それには次のような民話が残っています。

－昔の三美村に長者がいました。その長者は庭つくりが趣味でした。毎日毎日、険しい山や遠い川など道もないようなところを、木や石を牛に運ばせていました。

ある朝、その家で働く使用人が、「牛めが弱って死にかかっています。」と、長者のところへ慌てて駆け込んできました。牛のことなど一度も考えてみたこともない長者ですが、ボロボロの牛小屋に行って牛に近づいてみると、痩せこけた牛は、もう死んでいました。長者は、今まで牛のことなど一度も考えてなかったことを深く反省し、牛を手厚く葬り、そこに供養塔を建てました。－

この牛石は道標で、宝暦14年（1764）に建てられたもので、表に「右　しず村峠（むらまつ）道　三美村當國　三十二番札処、左　太田いわき道　慈眼寺」、左側面に「佐竹へ四り　宝暦十四申二月吉日　藤左衛門立之　石沢へ一り半」、裏に「牛銀之牛石　人足十四人　福島村ニ成申候」の銘文と、牛の線刻が刻まれています。



▲三美の牛石

もう一つは、若林地区の引田にある「弘法の牛石」とよばれる民話が残る牛石です。

－昔、引田村（現在の若林の一部）の若者が正月用の薪を牛の荷鞍に積んで、難所といわれる広見ヶ入の峠（若林と上村田の境）に来たとき、牛が足を滑らせ谷底へ転げ落ちてしまいました。

若者は谷底まで行き、牛を助けようとしましたが、牛は、既に息絶え絶えでした。そこへお坊様が通りかかり、「この牛は神となって、この難所の峠を通る牛や馬などを明日から守ってくれるだろう。」と言って呪文を唱え、持っていた杖（錫杖（しゃくじょう））を牛にあてると、その牛は見る間に石になってしまいました。そして、その後この峠では事故がなくなり、そのお坊様は弘法様といわれ、その石を「弘法の牛石」と言うようになりました。－

このように、2つの牛石にはそれぞれ伝説があります。牛は、農作業を支える相棒であり、生活を共にする身近な存在でした。また、各地の民話や信仰の中にも度々登場するなど、人と牛の結びつきは仕事だけでなく、文化や心の面にも広がっていたことがうかがえます。

せわしない日々だからこそ、時には、土地の記憶や伝承を今に伝える路傍の石（石仏・石塔など）に、目を留めてみてはいかがでしょう。そこには、新たな発見があるかもしれません。



【参考図書】

・大宮町石仏・石塔調査報告書－おおみやの野仏とその祈り－
・大宮町の民話

（歴史民俗資料館　宇留野美雪）

流行前からしっかり対策！

知っておきたい感染症予防のポイント

気温が低く、空気が乾燥する冬は、ウイルスの活動が活発になるため、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ、感染性胃腸炎などさまざまな感染症が流行しやすくなります。

感染症の種類は違っても、基本的な予防方法は同じです。ポイントを押さえて感染症を予防しましょう。

まずは手洗いで感染症予防！

いろいろな場所を触ることで、気づかないうちに手にウイルスなどが付着します。その手で、鼻や口などに触ることで粘膜からウイルスが侵入して感染します。**帰宅時**や**調理の前後**、**食事前**、**トイレの後**などに、石けんを使って手を洗いましょう。

正しい手洗いの手順（目安:30秒）

1



流水でよく手を濡らした後、石けんをつけ、手のひらをよく擦ります。

2



手の甲を伸ばすように擦ります。

3



指先・爪の間を念入りに擦ります。

4



指の間を洗います。

5



親指と手のひらをねじり洗いします。

6



手首も忘れずに洗います。

手洗いとあわせて実践！３つの感染対策

マスクの着用

症状がないときも、マスクを着用しましょう。また、周りの人へ感染させないためにも、咳やくしゃみをするときはマスクやティッシュ、ハンカチなどで口や鼻をおおいましょう。



定期的な換気

閉め切った室内など空気が循環しづらい場所では、ウイルスが同じ場所にとどまってしまいます。定期的に窓を開けて換気をしましょう。



規則正しい生活

主食、主菜、副菜を組み合わせていろいろな食材をバランスよく食べたり、適度な睡眠をとり、ウイルスに負けない体をつくりましょう。



まちの給食、いただきます！

「子どもたちに最高の給食を届けたい」という思いで力を入れている市の学校給食の献立を紹介します。今回は切り干し大根を子どもたちに人気のソース味で炒めました！お肉と野菜の旨味が染み込み、お弁当のおかずにもぴったりの一品です。　問 学校給食センター　☎53-3394



ワンポイントMEMO

切り干し大根には成長期に欠かせないカルシウムや食物繊維が凝縮されています。和食が苦手な子どもたちにも美味しく栄養をとってもらえるようソース味にアレンジしてみました。

Pick Up！メニュー　切り干し大根のソース炒め

【材料】
切り干し大根：20g　豚肉（こま切れ）：100g　キャベツ：1/6玉
にんじん：1/3本　ピーマン：1個　小松菜：2株　サラダ油：大さじ1
〈調味料〉
中濃ソース：大さじ1　オイスターソース：小さじ1
ウスターソース：小さじ1　しょうゆ：小さじ1/2　こしょう：少々

【作り方】
1 切り干し大根は水で戻し、水気を絞って食べやすい長さに切る。
にんじん、ピーマン、キャベツは5ミリ幅の細切り、小松菜は1センチ幅に切る。
2 フライパンに油を中火で熱し豚肉を炒め、色が変わってきたら、にんじん、切り干し大根、キャベツ、ピーマン、小松菜の順に炒める。
3 野菜がしんなりしたら〈調味料〉を全て加える。汁気が少なくなり、全体に味がなじむまで炒めたら、最後にこしょうで味を調えて完成です！

脳イキイキ！すこやか習慣

読んですぐできる認知症予防をご紹介します！
問 長寿福祉課　☎52-1111（内線174）

脳トレ！ 穴埋めひらがな

2つの単語が完成するように中央の□にひらがなを入れて完成させてみましょう。

問1

	ま	
は	□	び
	び	

縦のヒント
今月号の特集に関係する単語

問2

	あ	
ふ	□	ん
	た	

縦のヒント
9ページに出てくる地名

問3

	ま	
た	□	き
	く	

縦のヒント
13ページにある衛生用品

※人によっては難しい場合があります。頑張らせることがストレスとなり、認知機能の低下を招くことがありますので、無理強いしないことが大切です。

市の最新情報、ごみ収集日の通知機能などが便利なスマートフォン向けアプリ「ひたまるアプリ」をご利用ください！



iOS　Android

広報常陸大宮　令和8年11月号
（令和8年11月25日発行）
発行：常陸大宮市　編集：企画政策課
〒319-2292　茨城県常陸大宮市中富町3135-6
電話　0295-52-1111
E-mail　kouhou@city.hitachiomiya.lg.jp

常陸大宮市の人口
（11月1日現在）
人口：34,980人
（男性：17,375人／女性：17,605人）
世帯数：15,168世帯

（穴埋めひらがなの答え）問1：な（まなび・はなび）、問2：き（あきた・ふきん）、問3：す（ますく・たすき）

VEGETABLE OIL INK
再生紙と植物油インクを使用しています。